

令和6年度 第3回 熊本市多核連携都市推進協議会 議事要旨

I 開催日時

令和6年（2024年）11月26日(火) 13:30～15:10

II 開催場所

熊本市国際交流会館3階 国際会議室

III 委員名簿

17名（うち欠席7名：柴田委員、竹内委員、吉城委員、仁科委員、濱石委員、丸本委員、川口委員）

|            |        |             |                                |
|------------|--------|-------------|--------------------------------|
| 会長<br>都市計画 | 両角 光男  | もろすみ みつお    | 熊本大学 名誉教授                      |
| 経済         | 宇野 史郎  | うの しろう      | 熊本学園大学 名誉教授                    |
| 農業・地域      | 柴田 祐   | しばた ゆう      | 熊本県立大学環境共生学部 教授                |
| 地域防災       | 竹内 裕希子 | たけうち ゆきこ    | 熊本大学大学院先端科学研究部 教授              |
| 交通計画       | 吉城 秀治  | よしき しゅうじ    | 熊本大学くまもと水循環・減災研究<br>教育センター 准教授 |
| 福祉         | 仁科 伸子  | にしな のぶこ     | 熊本学園大学 社会福祉学部 教授               |
| 住宅・建築      | 本間 里見  | ほんま りけん     | 熊本大学大学院先端科学研究部 教授              |
| 環境         | 小島 知子  | こじま ともこ     | 熊本大学大学院先端科学研究部<br>准教授          |
| 医療         | 池上 あずさ | いけがみ あずさ    | 一般社団法人 熊本市医師会 理事               |
| 高齢者福祉      | 吉井 壮馬  | よしい そうま     | 熊本市老人福祉施設協議会 会長                |
| 児童福祉       | 森 眞樹子  | もり まきこ      | 熊本市私立幼稚園・認定こども園協会              |
| 教育         | 濱石 浩二  | はまいし こうじ    | 熊本市PTA協議会 会長                   |
| 経済         | 丸本 文紀  | まるもと ふみのり   | 熊本商工会議所 常議員                    |
| 住宅         | 川口 雄一郎 | かわぐち ゆういちろう | 公益財団法人 日本賃貸住宅管理協会<br>熊本県支部 顧問  |
| 公募         | 伊東 洋   | いとう ひろし     |                                |
| 公募         | 貴田 雄介  | きだ ゆうすけ     |                                |
| 熊本県        | 富永 隼行  | とみなが よしゆき   | 熊本県 企画振興部長<br>※代理：企画振興部 沖政策審議監 |

#### Ⅳ 次第

- 1 開会・挨拶
- 2 議事
  - (1) 次期都市マスタープランの構成の検討
  - (2) 課題の設定
  - (3) 将来像の検討
  - (4) 分野別の方針の検討
  - (5) 今後の進め方
- 3 閉会

#### Ⅴ 議事

- 協議事項 (1) 次期都市マスタープランの構成の検討
- 協議事項 (2) 課題の設定
- 協議事項 (3) 将来像の検討

#### ＜事務局から説明＞

#### 両角会長

- ・議題 1 から議題 3 について、まずは将来像の中の基本理念の説明文を中心にご意見をいただき、その後で他の部分についてご意見をいただきたい。

#### 吉井委員

- ・8行目の「人口減少や超高齢社会の急激な進行」について、超高齢社会だけが問題ではなく、少子高齢化が問題であるため、「人口減少・少子高齢の進行」といった表現の方が望ましい。

#### 貴田委員

- ・10行目の「デジタル利用をはじめとするライフスタイルの変化」、18行目の「国内外との交流と情報化が進んだ都市空間を目指していく」に関連して、課題の中で、デジタル化や市民参加、交流に関する記載やイメージがあるとよい。
- ・例えば、熊本市の学校ではデジタルデバイスの活用が進んでおり、他都市と比べても先進的な部分で、アピールできると思う。

#### 本間委員

- ・20行目の「公共交通を主軸とした暮らしやすく効率的な都市構造」について、車中心の社会からの変換、中心市街地の活性化等を掲げているが、ウォーカビリティを高める取組やウォーカブルなまちづくり、自転車の利活用など、もう少し踏み込んだ記載をしてもよいと感じた。

#### 宇野委員

- ・16行目の「都市空間を再構築する」について、市民にわかりやすくするために、イメージ図のようなものを作成するのがよいと思う。
- ・再構築の結果、市民生活の質や価値を向上させていくことと、それが国内外との交流と情報化が進んだ都市空間であるということの間に、言葉が抜けている気がする。
- ・33行目だけ「都市的空間」という表現になっているのは、何か意味があるのか。

#### 事務局

- ・全体の整合も踏まえて修正する。

#### 両角会長

- ・都市空間としては、建物と建物の間に生まれる公共的な空間を指すことが多いが、ここでは市街地のことを表現していると考える。

- ・そのうえで、この表現をそのまま用いるのであれば、もう少し丁寧に言葉を補うことも必要である。

#### **森委員**

- ・都市空間は、歩ける場、歩いて移動できる空間という印象を受ける。

#### **両角会長**

- ・屋外の滞在の場というご意見だが、都市マスタープランでは市街地全般の物的な空間を都市空間と呼んでいることから、そのことがうまく伝わっていないということではないか。

#### **伊東委員**

- ・基本理念の検討においては非常に上手くまとめられているが、分野別の方針などを議論してからもう一度議論してはどうか。

#### **両角会長**

- ・今回は、章立ての構成に従って議論しているが、委員ご指摘のとおり、各章での議論の後に説明文を議論するという考えもある。
- ・一方、基本理念がある程度定まらないと、各論にぶれが生じるという懸念もある。そこで、今回は先に将来像の初期案を提示した上で各論を議論し、その後また基本理念を議論するという流れがよいのではないかと考える。
- ・ここで決めたことは確定ではなく、とりあえず文案を固め、最後にフィードバックして議論し直すという流れで進めていくことでいかがか。

#### **小島委員**

- ・都市マスタープランはそれぞれの方針固めるものと思うが、様々な内容が盛り込まれており、どこのプライオリティーが高いのかははっきりしない。
- ・広域交流を目指すことやデジタル利用など様々だが、一番目指していることは何なのか、もう少しはっきりしたらよいと思う。

#### **沖委員**

- ・とてもよくまとまっていると思う。こういった計画は性格上、どうしても個性が出にくく、包括的な記載となるのはやむを得ない部分がある。
- ・最初に方針を示し、個別に議論し、最後にもう一度見直すということであれば、スタートはこれでよいと思う。

#### **池上委員**

- ・健康で長生きできるまちづくりが非常に大事だと思うので、ぜひそういうところも目指してほしい。
- ・具体的には、道路が少し歩きにくいことや、公園が少なく複数人で集まって体を動かす（例えば太極拳など）場所が少ないことが改善されるとよい。
- ・また、リハビリ時には家の中だけでなく外出もするため、坂道や歩きにくい道路の改善などを考えてほしいというも思っている。

#### **両角会長**

- ・生活の質という言葉に含まれているかと思うが、健康というファクターは非常に大きいので、表現の中で工夫ができればよいと思う。

#### **森委員**

- ・小島委員が言われた、優先度がはっきりしないというのは同意見だが、持続可能な多核連携都市を念頭に置くと、様々な分野から攻めていかないと構築できないのかとも思う。

#### **両角会長**

- ・皆が感じたように文章が長くなっており、様々な内容を盛り込むとやむを得ない部分もある

- るかと思うが、細かな点も含め、今後表現を磨いていきたい。
- それでは、構成や課題の設定も含めて、ご意見いただきたい。

#### **伊東委員**

- 課題の設定において、SDGs の 17 の目標を入れてもよいのではないかと。事務局の考えをお聞きたい。
- SDGs は 2030 年が目標であり、20 年後を見据えた都市マスとは時期のずれがあるかもしれないが、それぞれが掲げる内容（健康と福祉、質の高い教育、住み続けられるまちづくりなど）は都市マスにも関係する部分が多くあると思う。

#### **事務局**

- ご指摘のとおり、他都市のマスタープランには SDGs が入っているものがある。
- 今回はこれまで当協議会で議論した内容を記載しているが、SDGs についても、都市計画の視点からうまく課題を抽出してこの中に加えることができるか、皆様の意見を踏まえながら検討していきたい。

#### **両角会長**

- 方向性は一致していると思うので、説明文中に SDGs について記載する、SDGs を課題とリンクさせる、あるいは準拠していることをどこかで説明するなど、事務局には検討をお願いしたい。

#### **本間委員**

- カーボンニュートラルについて全く触れられていないが、2050 年という目標年は次期都市マスにも近いと思うので、カーボンニュートラルについても踏まえる必要がある。
- カーボンニュートラルに対する貢献という意味で、何ができるのかを記載した方がいいと感じた。

#### **池上委員**

- 人口減少や超高齢化にも結び付くが、働きに来て長く暮らしている外国人もあり、その方々の住居については、空き家対策などともリンクするかもしれない。
- 海外からの移住者を積極的に受け入れるような姿勢を見せてもよいのではないかと。思う。

#### **両角会長**

- 半導体関連企業の進出の影響もあるが、技能実習生なども増えており、外国人の生活者が増えている。
- これはかなり幅広い問題でもある。住居、教育、地域になじめるようにするための支援など、都市マスタープランから少し外れる部分もあると思うが、多文化共生の問題には触れていく必要があるのではないかと。思う。

#### **森委員**

- 先ほど意見が出た SDGs について、今は 5 歳児から SDGs を学んでおり、17 の目標のどれに該当するのかということ子どもたちも考えている。
- SDGs について記載することは、小さい子どもたちが見た時にわかりやすいと思う。

#### **貴田委員**

- 基本理念に記載されている、地域の文化の次世代への継承について、例えばお祭りの担い手不足、継承が危ぶまれていることがある。
- 課題の分類では交流になるのかもしれないが、そういう活動が防災や教育に繋がるかもしれないので、地域の文化、継承してきたものを続けていく、残していくことは必要と思う。
- 農地の保全が自然環境・景観に入っているが、農地の保全というのは産業とも重なっていると思う。
- 高齢の担い手が増える中でも若年層に継承されていかないのは、収益が挙げにくい産業構造が原因かと思うので、産業という観点から農業を大事にしていく必要がある。

## 事務局

- ご指摘いただいた地域の文化の継承などについては 18 ページ、課題の設定の中の、市民参画の推進、これが地域の文化の継承であり、防災などにもつながってくると考えている。
- なお、30 ページで後ほど説明する分野別の方針の中でも、横断的な視点として様々な分野にまたがる視点としたいと考えている。
- 農地の保全と産業との関係については、17 ページ、経済・産業・観光の中に記載している。
- カーボンニュートラルについても、例えば土地利用、交通や環境などあらゆる分野に関係していくので、これも横断的な視点として、各分野の中で取り込んでいきたいと考えている。

## 伊東委員

- 基本理念に「広域交通ネットワークを強化し、国内外からの多様な交流を促進するとともに、産業の振興を図る」と記載があり、17 ページの経済・産業・観光の中で「半導体関連企業の進出によるインパクトへの対応やインバウンド等の観光需要への対応」などが記載されている。
- しかし、今後人口が減っていけばマーケットが小さくなり、地元の中小企業等の仕事が減くなり、若手の働く場所が減少すれば、東京や福岡といった県外へ就職するため、結果的に人口流出を止められない。
- 例えば、若者が起業したい場合に手助けになる支援制度など、今以上に経済の活性化、地域の振興を図る具体的な取り組みがあれば、熊本に住みたい、住み続けたいという若者も増えるのではないか。
- インバウンドや半導体のインパクトへの対応という受け身的な発想ではなく、積極的に産業や企業をどう育てていくか、働く場所をどうつくっていくか、若者が魅力あると感じるような熊本市のまちづくりをどうやっていくか、もう少し議論を深めて、基本理念に反映してもらえばいいと思う。

## 事務局

- 都市の中で働く場所は大変重要だと考えており、そのうえで、まず都市の分野でできることは、中心市街地のにぎわいを創出して都市の活力を生み出すこと、また、半導体関連企業の進出をうまく受けられる都市構造にすることが、若者の働く場所にもつながってくると考えている。

## 両角会長

- 産業振興の話は、熊本市総合計画の産業政策、経済政策の部分が大きく、それを受けて都市構造をどう作っていくかということになってくるかと思う。
- その辺りの整理は難しいが、活力を維持するためには、若い人たちが活躍できる環境をつくっていくことが重要であるため、記載を再検討する、あるいは関連の施策を上手く選んでいくことが重要ではないかと思う。
- 宇野委員におかれては、以前、熊本市が経済、社会の牽引者として広域的な拠点であるということをもう少し出してはどうかという意見を出しておられたが、今の経済政策とも絡んでくると思うので、何か意見あればお願いしたい。

## 宇野委員

- 熊本市総合計画で産業振興というのは具体的に展開していくので、都市計画とそれをどう連動させていくのか、どこまで組み込んでいけるかが、難しいという気はしている。
- 産業振興の重要性は以前から思っており、都市計画の側面は、国土交通省の計画、産業振興は経済産業省の計画で、それぞれ別個の縦割り行政の視点でまとめられていくが、地域の都市では、やはりまちづくりという点で一体化して、計画書というのは作っていかないといけないと前々から思っている。
- 難しさはあるが、ぜひ検討いただければと思っている。

### 両角会長

- ・産業そのものはなかなか扱いにくい部分があると思うが、産業用地をどのように確保していくかは都市マスタープランで取り扱える範疇だと考える。
- ・中心市街地に魅力的な働ける場をつくることは、企業の問題であると同時に、働くというのは前後の生活も含め都市全体にも影響するため、若い人たちに熊本市の中心部で働きたいと思ってもらえるようにすることは都市にとっても大事な施策になり得る。

### 宇野委員

- ・熊本空港については新しい動きが出ているが、熊本港が十分生かされていないと感じており、熊本港の利活用の視点を追加していただければと思っている。

### 事務局

- ・熊本港も重要な施設であり、「都市施設・交通体系の方針」の中で広域道路ネットワークや公共交通について記載しているが、産業の側面においても、広域的なつながり、交通ネットワークの形成は非常に重要で、その一翼を担うのが港だと考えている。
- ・今後中身を固めていく中で、熊本港の重要性、利活用についても取り入れていきたいと考えている。

### 両角会長

- ・熊本西環状線や中九州横断道路などは、半導体関連産業等の集積拠点と熊本港を結ぶ重要な道路という位置づけであり、熊本県が熊本港の埋立計画を進めて整備しようとするなど、半導体関連産業の進出に熊本港の利用が期待されている。
- ・もうひとつ、国の安全保障の観点で、港の位置づけも変わり、港湾施設整備が進むようなので、そういうことも踏まえて今後記載内容は検討してもらいたいと思う。

### 本間委員

- ・23 ページの立地適正化計画の拠点について、熊本市の核が 15 拠点設定されているが、国がコンパクトプラスネットワークを掲げ、誘導施設の例として福祉施設や公共施設も含んでいる中、なぜ熊本市はそれらを誘導施設として設定していないのか、また今後も現在の 3 施設に限っていくのか、考えをお聞きしたい。
- ・今は、シンプルに施設があるかどうかを判断しているようだが、もう少し戦略的に拠点誘導する方法を考えなければならず、また拠点によって性格が違っているので、その拠点に合わせた誘導方法も考えていかなければいけないと思う。
- ・西側には拠点がほとんどなく、偏在していると思うが、拠点の見直しも考えているのか、あるいは、具体的に拠点にどう誘導していくのか、そういった方針があまり明確ではなく、説明文でも大まかに記載しているだけであるので、もう少し立地適正化計画を検討した方がよいと感じている。

### 事務局

- ・誘導施設、拠点の考え方については、今後の専門部会、協議会の中でも議論していただきたいと考えており、現在事務局案を検討中である。

### 両角会長

- ・都市計画区域マスタープランで拠点を設定しているが、熊本市の 15 の拠点とは位置づけが異なる部分もあるので今後検討していただきたい。

## 協議事項 （４）分野別の方針の検討

### <事務局から説明>

### 本間委員

- ・43 ページの道路について、広域道路ネットワークの整備はよいが、都市内道路の整備等

の方針の部分について、まだ道路の整備をするかという印象がある。

- 生活を維持するための道路と考えると、自動車を排除して歩行者専用の道路に変えるなど、そういうこともできる記述があってもよいと思う。
- 整備だけを記載すると、自動車のための道路をつくるという印象があるが、歩行や自転車のための道路を考えることできる記載をされるとよいと思う。
- 45 ページの公園緑地等の方針についても、公園の整備や管理することしか記載はないが、活用が一番大事であり、特に街区公園は、地域の方々が積極的に管理して利用し、活用していくことを進めるべきだと思う。
- そのために、公園の周辺については、道路も含めて安全で使いやすい公園を目指すことが必要であり、現在の記載内容では、公園を整備・管理する行政からの動きしか読み取れない部分があるので、市民参加や協働、活用を深めていくといった文言が記載されるとよい。

#### **沖委員**

- 43 ページの公共交通で、今、県では空港へのアクセス鉄道を整備検討中であり、豊肥線の機能強化も JR とともに推進していきたいという考えがある。
- 事業主体ではない公共交通を、この都市マスタープランにどこまで表現できるのかを確認したい。
- 都市内の道路については、まちなかの歩きやすい歩道とか、そういう意味も込めた表現ができればよい。

#### **森委員**

- 49 ページ、将来像の目指す未来が表現されていることはわかりやすいが、見た時に一番に目が入るのが道路である。
- 何を訴えたいのかがわかるよう、もう少し濃淡を強調してもよいのではないかと。

#### **吉井委員**

- 道路について、自動車がセンターラインを越えて走行するような狭い道路に自転車専用の青いラインが整備してあることや、がたついて斜めになっている歩道などが気になっている。
- また、山で用いられている、体力度や危険度が点数化されたグレーディングという考えを、道路の評価に取り入れてもよいのではないかと。
- 例えば、危険度、安全度などの指標で数値化し、それが積み重なって 15 拠点の評価が目に見える形で数値化できることで、拠点の評価がイメージしやすいと思う。

#### **宇野委員**

- 望ましくない未来と目指す未来が描かれているが、現状の熊本市を描くことはできるのか。

#### **小島委員**

- 望ましくない未来には、交通の大きな問題である渋滞がより強調されてもよいと思う。
- 45 ページに記載の自然環境の保全等について、里山など保全を市民参加も含めて行い、シカやイノシシが人間の居住地近くに出没しないような記載ができればよいと思う。

#### **伊東委員**

- 今後人口が減少する中で、都市空間全て完全な形で維持することは財政的に困難であるため、コンパクトな都市空間を作っていくことが必要になるのだと思う。
- 問題は市民に対し、コンパクトシティを作る主旨を理解してもらい、居住誘導区域等での居住を進めてもらうかという点にあると思う。

#### **貴田委員**

- 目指す未来の中の、まちなかの賑わいや公共交通の利用しやすさについて、人口が減り利用者が減少していく社会でどうしていくべきか考える必要がある。
- インターネット空間の広がりにより、外出しなくてもオンラインで買い物ができる社会において、まちなかに人や観光客を集めるには具体的にどうしていくか、財政的な面も併せ

で考えていく必要があると思う。

## 事務局

- ・43 ページ、②都市内道路の整備等の方針については、都市計画道路に位置づけてある道路で未整備の区間もまだあるため、これは都市計画の将来像を実現する上で必要なものとして位置づけているので、今後も整備を推進していきたいと思っている。
- ・その中で、最初から道路をつくるだけではなく、既存道路の改良、交差点改良なども含んでいるので、その点も記載していきたいと考えている。
- ・45 ページ、自然環境・景観形成の方針については、公園施設の整備や管理のみならず、市民と一緒に活用していくという意見についても記載していかなければならないと思う。
- ・熊本市の緑の基本計画にも公園の利活用について記載していると思うので、それも踏まえ、分野別の方針を検討していきたいと思う。
- ・公共交通については、都市計画は市だけでやるものではないため、民間も含めて、土地利用や都市施設の整備など、熊本市以外の主体の取組みなども含めて記載していきたいと思う。
- ・都市交通マスタープランや地域公共交通計画も見直し作業中であるため、それらと連携して、多様な主体の取組みを取り込んでいきたい。
- ・目指す未来のイメージ図の道路が目立つというご指摘について、拠点と拠点を利便性の高い公共交通や幹線道路で結ぶ多核連携都市の考え方から、どうしても道路が目立ってしまうが、絵だけではなく前段の説明も検討するなど、市民へのわかりやすさを引き続き考えていく。
- ・本市の現状のイメージ図については、小島委員からあった渋滞などの問題、課題についても踏まえ挑戦してみたいと思う。
- ・道路の評価について、安全面から道路の舗装状態は舗装計画の中でいろいろと評価しており、舗装の劣化状況等は一応指標で示している。
- ・主要渋滞箇所等など、道路の現在の状況を踏まえた上で、今後どのように整備をしていくか、どのように空間を管理していくのかを都市マスタープランの中で触れていきたい。
- ・コンパクトシティについて、全市域をまんべんなく整備し、土地利用を行っていくことは今後不可能だと思うので、メリハリをつけて居住を誘導するエリア、都市機能を誘導するエリアに魅力と利便性を高めて、そこに誘導していきたいと思う。
- ・それ以外の区域にも既存のコミュニティが出来上がっているもので、そこを見捨てるわけではなく、コミュニティを維持して生活利便性を確保していくのが都市計画の役目だと思うので、そういった誘導と郊外部の地域コミュニティの維持を都市マスタープランの中で記載していきたい。
- ・賑わいの創出、公共交通の利便性、利用者の減少について、公共交通の利用者を増やして維持していくためにも、コンパクトシティで居住誘導区域に居住を誘導していくのが重要だと思うので、今後個別に議論していただき、具体の文章を検討していきたいと思う。

## 協議事項 (5) 今後の進め方

### <事務局から説明>

## 両角会長

- ・都市マスタープランの基本理念、説明文で、いくつか大事なキーワードがまだ表現できていないという指摘をいただいたので、引き続き検討いただければと思う。
- ・分野別の方針については、これから専門部会含めて議論を詰めていくところなので、いただいた意見を踏まえて、また議論したい。
- ・人口が減少すると税収が下がり、都市の維持、特に公共サービスの維持が難しくなる。一方で市街地の拡散が続くと公共サービスの効率が悪くコストも上がる。したがって市街地をコンパクトに抑えながら便利な移動環境を整えることで、限られた財政で良好なサービスを提供しようという考えが都市マスの底流にある。
- ・これまでの2期にわたる次都市マスタープランでは、その説明にかなり力点を置いていたのだが、次期計画策定の検討資料ではあまりその表現がない印象。



- 都市経営の観点からもコンパクト＆ネットワークの都市づくりが必要だということを記述できないか、事務局でまた検討いただきたい。

#### **吉井委員**

- 高齢者福祉の分野では、認知症や障害など医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域で暮らし続けるという考えがある。
- 一方で誘導しながら、高齢者福祉の分野では住み慣れた地域で暮らし続けるというのは、矛盾しているような感覚もあるが、その部分については忘れないで進めてきたい。

#### **両角会長**

- 人口が減少し高齢化が進行すると、将来はあらゆる施策で地域を支えることになっている。
- 支える地域が消えてしまいそうになっている中でどう維持するのか、私も非常に疑問に思いつつ悩んでいるところで、今後、議論が必要になってくると思う。

以上